

2024年9月7日

13:00～15:55

## 繊維学会 第711回 理事会議事録

### 1. 確認事項

**出席理事** 辻井敬亘、濱田仁美、村瀬浩貴、増田正人、松葉豪、永田謙二、末信一朗、氏家誠司、内田哲也、武野明義、道信剛志、花田朋美、竹中幹人、木村睦、櫻井伸一、巽大輔、高崎緑、大松沢明宏、神山統光、増森忠雄、山崎睦生、清水宏泰、森下美由紀、東城武彦、石澤仁志

**欠席理事** 中澤靖元、上高原浩、出口潤子、小泉聡、香出健司

**監事** 大田康雄、土田亮、小原奈津子 (順不同、敬称略)

**会場** ハイブリッド開催 (繊維学会事務局、オンライン (zoom システム利用))

理事 30 名のうち 25 名、監事 3 名全員の出席があり定款 36 条により本理事会は有効に成立した。本理事会は、ハイブリッドにて開催し、理事の意思表示は発言や挙手にて決議することを確認した。続いて、前回理事会議事録の研究委員会活動に関する報告事項において、特定の個人名の記載や特定の団体に対する意見として誤解を招きかねない表現があったとして修正の提案があり、異議なく承認された。理事会終了後、HP へ掲載し会員と共有することとする。続けて、辻井会長が議長となり第 711 回理事会議事へ移った。

### 2. 審議事項

#### 1) 会員入退会について・・・<資料 1>

9月4日(水)現在の会員数の詳細(正会員数1004名(正会員932名、名誉会員17名、永年会員55名)、学生会員426名、維持会員11団体(増減なし)、賛助会員88団体) ISF2024、秋季研究発表会への参加・発表申込みと関連し、学生会員の増加が顕著であった。

#### 【審議結果】

入退会報告について、正会員1名増、学生会員66名増、維持、賛助会員は増減無しで異議なく承認された。併せて、理事各位へ会員増強についての協力が求められた。

#### 2) 2024年度 繊維学会賞各賞受賞候補者選考委員の選任について・・・<資料 2>

選考委員会開催日：2025年2月15日(土)

選考委員候補16名

#### 【審議結果】

内規に基づき、選考委員候補者 16 名が運営委員会より提案され、異議なく承認された。なお、1 名多い 16 名としている理由として、辞退者が出た場合の予備員であることが説明され、こちらについても異議なく承認された。理事会終了後、順次選考委員への委嘱を行うこととした。

### 3) 2025 年度夏季セミナー・2025 年度秋季研究発表会実行委員長選任について

夏季セミナー実行委員長 候補 大分大学 教授 氏家 誠司

秋季研究発表会実行委員長 候補 山形大学 教授 松葉 豪

#### 【審議結果】

2025 年度夏季セミナー実行委員長として氏家理事、2025 年度秋季研究発表会実行委員長として松葉理事について、其々異議なく承認された。

### 4) 感覚と計測研究委員会に関する今後の対応について・・・<資料 3>

村瀬副会長より、感覚と計測研究委員会への総会での指摘、その後の理事会での意見交換や、現研究委員長への聴き取り調査の結果が改めて報告された。前回理事会において指摘された事項を受けて委員長と再度相談した結果、新たな謝罪文を HP へ掲載し、共催していたとして修正した会告の取り下げを行うことが提案された。また、研究委員会規定の第 2 条では「本会の目的に関与した特定分野の専門活動を行い、これを通じて、学術、産業への貢献、学会員へのサービス、学会員の増大に寄与することを目的とし」としていることから、会員サービスの観点では不適切であったが、研究委員会の企画に関しては当初から繊維学会員が関与していること、また、当該研究分野振興の一端を担っていると考えられることができること、また、本会における共催や協賛に関する内規がなかったことを鑑み、本件についての配分経費の返還は求めないことも合わせて提案され、以下の議論の結果、承認された。併せて、今後は繊維学会内の共催、協賛規定等に関する迅速な整備、再発防止に努めることが伝えられた。更なる活動の活性化につなげていくこと、課題と今後の対応に関して辻井会長から会員向けメッセージを発信することも承認された。

#### (意見)

・仮に返還を求めるのであればその金額はいくらになるのか。

→ 該当期間の支援金総額は 200,000 円、その内、謝金として講師へ支払われた金額は 158,053 円、残りは研究委員会の活動費や積立金となっている。

・理事会として採決を取れば承認される案と思うが、個人的には繊維学会からの支援金 200,000 円全額を返還してもらいたい事案と考える。

・会告へ掲載しなかったのがうっかりミスなのだとしたら、それを 5 年間続けたことになる。総会での意見に対して、現在の説明をして会員が納得されるかどうか考えると難しいのでは無いか。

→ 5年間見過ごしてきたのは委員会としての運営上の問題であり、また本理事会としてもしっかりチェックができていなかったのは反省すべき点である。

・当該研究委員会に関する案件を含めて総会での質問事項に関して、現状きちんと回答ができていないが、今後 会員からの質問に集中的に回答をされるのか？例えば、企業の株主総会での質問事項は議事録に記載されたり文書で回答されたりしているのか？そうであれば同様の対応が必要では？

→ 前回の総会の質疑に関して回答することは、執行部の宿題とさせていただく。できるところから会長メッセージとして会員に向け発信していく。

(大田監事：株主総会での質疑応答は、法律上は例えば株主提案等の動議で無い場合に報告の義務はないと認識している。)

#### 5) 役員選考について・・・<資料4>

総会時やその他からも会員の意思表示として、役員選考について検討すべきとの意見を受け、叩き台として執行部案を提案。重要案件であり、まずは大きな方向性について審議いただきたい旨、辻井会長より伝えられた。「前回の理事会において、繊維学会における役員選考に関する改革の必要についてご意見をいただき、会員による直接選挙の可能性を検討することとなった。関連する学会等の実施状況を調査し、また昨今の電子投票等システムの発展を踏まえ、執行部で検討した結果、以下の方針を提案する。会長選挙はマニフェスト公開により提示される次期体制運営方針に対して意思を表明する機会であり、学会運営の参画意識の醸成、議論の活性化につながると期待される一方、適切な一時候補者推薦が課題であり、支部あるいは会員の意識改革が必要と思われる」を前置きとして、執行部提案が提示された。

骨子として、①会長候補者の一時推薦、②被選挙会長候補者（3名以内）の選出、③マニフェスト公開、④会員による選挙、⑤次期体制案の策定、⑥理事会承認、⑦総会承認、⑧理事互選による会長の選任

#### 【審議結果】

本日の提案において、会員による会長選任と当該被選任者主導による組閣（役員選任）を大きな方針として、骨子①から⑧について異議なく承認された。今後は本骨子をベースに具体的な提案をすることが伝えられた。

#### (コメント)

- ・候補者のマニフェストに対して一般会員から質問をする機会などを検討されてはどうか。
  - ・支部推薦の各支部からの決定に至るプロセスが標準化されるのか。
  - ・支部役員会で合意した候補者を支部の長である支部長名で推薦するのがよいのではないか。
- 役員選考規定に明確なプロセスを明示することを検討
- ・企業理事を選ぶ際の運用についても継続して検討が必要でないか。

### 3. 報告事項

#### 1) 繊維系三学会合併協議会（第5回）及び、中間答申について

- ・各 WG からの中間答申報告
- ・今後の予定（中間答申8月末（2回目）、各 WG からの最終答申10月）
- ・会員説明会の開催時期や合併に関する会員からの意見反映

本件について、中間答申に基づき辻井会長から詳細報告と説明がなされた。

（質問・意見、回答）

#### 【学会、学会名に関して】

・川上・川中・川下が一つになることを前提に、前回議論を進められてきた。今回は統合するか否かの意思決定をしてもらうにあたり、もっと具体的に、三学会が統合した際の有機的な組み合わせの姿が魅力的かどうかについて、どこで検討し考えるのか。  
→ 協議会や WG から出てきたもの、会員との意見交換で得た意見から検討していく

・学会名については「日本繊維学会（The Society of Fiber Science and Technology, JAPAN）」を WG 案として提案するのか。例えば A 案 B 案のように2つの案があって選ぶのと違い、初めから1案しかないと会員は「これしかない」と受け取るのでは？ 協議会で決めた案に対して Yes or No で回答することになるのは、議決する際に不利に働くのではないか。例えば、繊維学会と日本繊維学会のどちらかからとしてはどうか。  
→ 「日本繊維学会（The Society of Fiber Science and Technology, JAPAN）」は案として提案するだけで、決定ではない。事務局検討 WG に持ち帰って、複数案の提案について改めて検討する。

#### 【諮問委員会】

・理事の人数についても効率化の意味でもっと減らしてもいいのでは。意思決定の単純さの意味からも、もっと少ない人数でもいいのではないか。それに加えて、更に諮問委員会を設置する意味とは？

→ 理事の数については難しいところがある。学会運営を行う上で、支部との意思疎通を考えると各支部長には理事になっていただくのが望ましい、企業理事にも協力をいただきたいなど、必要な人材を当てはめていくと既にかかなりの枠が埋まってしまうことになる。ただ、理事会人数については指摘いただいたこと含め、もう一度 WG に持ち帰って検討したい。諮問委員に関しては、学会が1つになったときに、学会の応援団として協力していただくことを前提に設置を検討している。決して、学会運営への口出しや、院政をひくようなことが無いように慎重に設置の有無を検討していく。

・シンプルな理事会体制に変えていくのが望ましい。統合して複雑になったうえ、更にコストがかかることは絶対やめるべき。

・会長選挙でもフレッシュな人材を採用しようとの動きがある中で、諮問委員会のような旧態依然を無視して学会運営ができるのか。企業で考えても色々やりにくいだけで、邪魔な存在でしかないように思う。前回の合併協議でも、諮問委員設置に関しては、反対の声が大きかった。世代交代のためには諮問委員会の設置は不要では。

・意見を言う人は、諮問委員であってもなくても運営、その他に対して口出しされるので、体制としてはシンプルであるべき。

→ 諮問委員会のイメージも人それぞれだと思うが、新学会への応援団として提案している。プライオリティを定めて、理事会のあり方について再度検討する。

### 【事務局】

事務局の区割り、役割等検討中

### 【論文誌】

・WG では、JFST に加えて **Journal of Textile Engineering** を残すことが提案された。新しい学会にとって2誌を残すよさがどこにあるのかがいまいち伝わってこない。また、JFST には技術論文のカテゴリーがあり、繊維機械技術分野の内容の投稿も可能である。せっかく統合することにより IF を上げられる要因になりそうな部分を削いでしまうことになってしまわないか？2誌であるべきメリットを感じられない。ぜひ、今後協議会で方針を決める際に、参考としていただきたい。

→ 最終答申に向けて、どういう選択肢があるか、それぞれのメリット、位置付けを考えた上で提案したい。

### 【財務】

・6500 万の予算の精度がどれほどかはわからないが、固定費のグラウンドデザインがあるべき。特に人件費についてはどうあるべきか案はあるのか？

→ 6500 万の精度については再検討の余地あり。人件費についても同様。事務局の在り方も見直していくことをロードマップに組み込んでいく必要あり。

・お金がないから何もできないとなっては本末転送。もっと予算精度を上げていく必要がある。

→ 学会収入として広告頼みから脱却していく検討が必要。予算設計の再構築。

### 【支部運営】

・従来型の運営の仕方、区割りだけでなく、ウェブによる情報交換も活発になり、これからの支部の役割やあり方を含めて検討していただきたい。

→ 3学会の統合有無に関わらず、繊維学会の将来像としても支部について議論していかないといけないタイミングであると考え。支部のあり方については、支部長会議などでも意見交換させていただきたい。

## 2) 80周年記念事業 ISF2024 国際シンポジウムについて

### 【発表・参加申込について】

- ・口頭・ポスター発表合計 331 件
- ・参加申込締切；2024 年 11 月 22 日（金）

### 【プログラムについて】

- ・当初の目標であった発表申込件数合計の 300 件を上回る結果となった
- ・近日中にも HP 上にプログラム掲載予定
- ・海外からの参加者増強のため、開催時期の近い ITMC, ATC 関係者と引続き調整中（韓国から 20～30 名、台湾から 10～20 名程度を見込んで活動を継続）
- ・韓国繊維工学会会長 来賓参加の希望あり

### 【スポンサー（展示・広告）について】

- ・**Gold**（展示）14 社（（一財）ボークン品質評価機構、東洋紡（株）、（一財）カケンテストセンター、（一社）日本繊維技術士センター、日本製紙（株）、明成化学工業（株）、セトラスホールディングス（株）、日本化学繊維協会、富士紡ホールディングス（株）、日清紡テキスタイル（株）、大日精化工業（株）、（株）ミマキエンジニアリング、Spiber 株式会社、（株）NHV コーポレーション）
- ・**Bronze**（広告）3 社申込（旭化成（株）、（株）クラレ、NETZSCH Japan（株））
- ・**一般**（展示）5 社申込（NPO 法人繊維技術活性化協会、日本化学繊維協会、マイクロ・イクイップメント（株）、京都工芸繊維大学・京都大学ジョイント）
- ・広告募集並びに、国内外問わず積極的な参加者勧誘へご協力いただきたい旨、櫻井実行委員長から理事へ依頼された。

### 3) 秋季研究発表会について・・・＜資料 5-1＞

・丸林弘典・副実行委員長（代理・オブザーバー参加）より進捗報告があった。また、秋研に先立ち、高校生セッションを 11 月 16 日（土）午後ハイブリッドにて開催することから、理事各位へも審査委員としての協力を依頼された。

・秋研・ISF 合同バンケットへの小島基金からの支援について・・・＜資料 5-2＞

→ 若手会員の交流、次世代を担う学生の育成を促進する意味でも、小島基金から学生の懇親会費の全額補助とすることが報告された。

### 4) 企画委員会

濱田副会長より、下記行事に関する報告がなされた。

・年次大会収支報告

2024 年 6 月 12 日（水）- 14 日（金）タワーホール船堀にて開催

参加登録者数 580 名（内訳：正会員 232 名、学生会員 197 名、非会員 63 名、学生非会員 34 名、無料・講師 54 名）

収入 参加登録費 5,154,360 円、展示・広告 2,350,000 合計 7,504,360 円

支出 会場代、予稿集印刷、ウェブ予稿集、参加登録システム等一式 3,582,221 円  
収支差 3,922,139 円

・基礎講座収支報告

2024年7月18日(木)、19日(金) オンラインにて開催  
参加登録者数 117名(うち講師 10名)

収入 参加登録費 905,000 円

支出 講師謝金、通信費(切手代、現金書留) 172,800 円

収支差 732,200 円

・第一回企画委員会開催について

2024年8月30日(金) オンラインにて開催

5) 報告・連絡事項

① 東北・北海道支部(支部長 松葉理事)

・8月28日(水)に2025年秋季研究発表会会場視察を行なった。会場である山形テルサにて仮予約等、手続きを進めることが報告された。開催日程は2025年10月27日(月)、28日(火)であることも伝えられた。

② 関東支部(支部長 中澤理事)

・2027年年次大会会場視察について  
・2024年12月6日(金) 関東支部講演会(予定)

③ 東海支部(支部長 永田理事)

・2024年度色材分析講座(協賛)2024年9月27日(金) オンライン開催  
・第55回中部化学関係学協会支部連合秋季大会(共催)  
2024年11月2日(土)、3日(日) 名古屋工業大学にて開催  
・第37回東海支部若手繊維研究会(共催)  
2024年12月6日(金) ウィンクあいち

④ 北陸支部(支部長 末理事)

・繊維学会北陸支部・日本繊維機械学会北陸支部  
2024年度研究発表会 12月頃開催予定  
・本来は石川・富山地区でも行事を開催すべきであるが、現体制ではかなり困難な状態

⑤ 関西支部(支部長 上高原理事)

・繊維学会関西支部会議&記念講演会報告、見学会実施予定  
・関西繊維科学賞、奨励賞も公募予定  
・秋季研究発表会 2024年11月28日(木)、29日(金) 京都テルサ  
参加登録、広告協賛募集中

⑥ 西部支部（支部長 氏家理事）

- ・第 39 回繊維学会西部支部講演会・見学会（主催）  
2024 年 11 月 8 日（金）九州大学にて開催
- ・2024 年度セルロース学会西部支部・繊維学会西部支部合同セミナー（主催）  
2025 年 1 月 10 日（金）九州工業大学にて開催

⑦ 研究委員会関係について

- ・堅ろう度標準化研究委員会 第 2 回講演会（主催）  
2024 年 9 月 18 日（水）ハイブリッド開催 対面：昭和女子大学にて開催
- ・繊維基礎科学研究委員会  
秋季研究発表会にて特別セッションを実施
- ・染色研究委員会  
秋季研究発表会と同時開催にて「第 60 回染色化学討論会」を実施
- ・若手研究委員会  
秋季研究発表会にて特別セッションを実施予定（招待講演のみ 10 件）

⑧ ATC-17 開催について

- ・会場：Feng Chia University, 台湾・台中（<https://www.atc17.tw/>）
- ・会期：2024 年 12 月 17 日（火）-19 日（木）  
（FAPTA 会議 2024 年 12 月 16 日（月）予定）
- ・参加登録費 発表者：Regular 300 USD（オンサイト 500 USD）、Student 120 USD  
（オンサイト 200 USD）参加・聴講のみ：Regular 300 USD, Student 200 USD
- ・発表募集中 abstract submission 2024 年 10 月 31 日（木）
- ・FAPTA メンバー国より Keynote Speaker1 名を要推薦

6) 各委員会からの報告等について

① 運営委員会

- ・2024 年度 第 1 回繊維学会運営委員会  
2024 年 8 月 27 日（火）オンラインにて開催
- ・2024 年度繊維学会各賞 応募者募集の依頼

② 企画委員会

- ・第 1 回企画委員会  
2024 年 8 月 30 日（金）オンラインにて開催
- ・10 月にも第 2 回企画委員会を開催すべく、準備中であること報告がなされた。

③ 国際連携委員会

- ・ISF2024 国際シンポジウム Special Session 3 として、11 月 28 日（木）に開催。

・S3 については、京都芸術大学、京都女子大学の学生への公開講演会としたいことが木村理事より提案された。

④ 将来構想委員会

・委員会準備中

7) 支部長・研究委員長会議について

・会議準備中。近日中にも支部長会議、研究委員長会議を開催予定

8) 編集委員会の報告

① 繊維学会誌

内田編集委員長より順調な発行についての報告がなされた。

② 論文誌 JFST

武野編集委員長より順調な発行についての報告がなされた。

9) その他案件

① 日仏繊維協力 WG

2024 年 8 月 23 日（金）経済産業省・日本化学繊維協会・フランスクラスター・繊維学会が参加してハイブリッドにて開催された。

テクニカルテキスタイルで 10 年ほど活動してきた。今後は、サステナブルテキスタイル、サーキュラーエコノミーを中心に活動していく。

② 学会誌広告掲載計画と協力要請の依頼について・・・<資料 6>

辻井会長、事務局より協力依頼

③ 今後の理事会日程について

2024 年 11 月 16 日（土）オンライン開催

2025 年 1 月 25 日（土）対面開催（東京）\*当初の予定から変更あり

2025 年 3 月 22 日（土）オンライン開催

**【学会賞選考委員会】**

2025 年 2 月 15 日（土）オンライン開催（東京）

**【監査委員会】**

2025 年 4 月 26 日（土）対面開催（東京）

④ TCS 会員管理システム導入に関する検討について

費用として 30,000 円/月ほどかかる。デモサイトのテスト、コストの面も検討しながら今後導入するか判断を進めていくことが報告された。

⑤ プラスチックの未来を考える会

プラスチックを取り巻く公益的課題を解決するため、サプライチェーン全体で検討・共創する場を提供し、ESG に適応した社会システムの転換とイノベーション

の創出を目指す研究会である。東京理科大学・佐藤治先生との意見交換を行ったこと、辻井会長より報告がなされた。

委員会 HP : [https://www.jaistso.or.jp/future\\_plastic/](https://www.jaistso.or.jp/future_plastic/)

⑥ 今後の学会行事担当について

\*2027年6月年次大会 別会場手配について検討する必要あり

	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年
年次大会	関東支部	関東支部	関東支部	関東支部	関東支部
夏季セミナー	中止	西部支部	北陸支部	東海支部	東北・北海道支部
秋季研究発表会	関西支部	東北・北海道支部	関西支部	関西支部	関西支部

#### 4. 監事コメント

【大田監事】総会での意見に対して、理事会で継続して密度高く議論が続けられていることは本当に良いこと。他の課題とともにフィードバックを行うとのこと、会員とのダイアログが機能し始めていると考える。また、感覚と計測研究委員会の今後の対応や進め方については、一定の合理性があるのではないかと感じている。ただ、会員の皆様に納得し、理解いただけるよう丁寧な説明が求められる。今後、規定類の整備を迅速により一層進めていただきたい。統合に関しては、1学会のビジョンやミッションを会員へ示していくことが重要と考える。

【土田監事】理事会が有効に機能していることがわかる議論であった。小島基金を有効活用し、より若手、学生会員との交流を図ることが望まれる。冒頭の議事録修正にもあった通り、学会が発する個人情報の取り扱いについてはより慎重に進めていただきたい。特に学会誌などは情報量も多く、重ねてのチェックが必要かと考える。

【小原監事】理事が会員の立場に立って、様々な視点で意見を出し合い、議論できたよい理事会であった。研究委員会に対する対応としては、何かしらの方法で情報が共有され、参加者がいたのであれば単なるミスかと思うが、規定が定められていなかったとはいえ、告知がされず繊維学会会員の参加がゼロであった事実から、謝金として使用した分の返還の義務は生じるのではないかと考える。ただ、ガバナンスが取れていなかった学会の責任もあるので、今回の提案を落とし所として、承認することはやむを得ない。今後、再発防止に向けて、注意喚起をしていくことが必要。また、「プラスチックの未来を考える会」など学会内外で大きなテーマで展開していくような活動を積極的に進めていかれることはとても良いことと思う。合併協議に関しては、本日指摘のあった固定費人件費の削減、慎重派から指摘されている問題解消などはどこでどのように検討し、解決していくかも併せて提示してほしい。総会での厳しくも妥当な意見については、会長がフォローしながら、改善の方向を見せながら進んでいただくのが有るべき姿かと思う。

【第711回理事会 議事録署名人捺印】

議長: \_\_\_\_\_ 印

監事: \_\_\_\_\_ 印

監事: \_\_\_\_\_ 印

監事: \_\_\_\_\_ 印